

地学協働

05

2023年02月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

1 地学協働活動推進フォーラムを開催しました！

2月15日（水）に、全道各地の市町村教育委員会や高等学校等から約200名の参加をいただき、「北海道CLASSプロジェクト『地学協働活動推進フォーラム』」を開催しました。道教委が昨年度から取り組んでいる「北海道CLASSプロジェクト」の研究指定校（北海道当別高等学校、北海道白老東高等学校、北海道上富良野高等学校、北海道帯広三条高等学校）が、2年目となる今年度の取組について、発表しました。

■ 発表の概要（QRコードから各校の資料を見ることができます）

北海道当別高等学校

コンソーシアム会議②
実施日 令和4年9月5日(月)15:30～17:00

【報告事項】
1 CLASSプロジェクト進捗状況
(1)1学期の活動報告
(2)2学期1年生のフィールドワークに向けて(オンライン)資料紹介
(3)2学期2年生の中学校体験入学紹介パンフレット作成について

【協議事項】
(1)当別高校生の履修希望市内企業等の調査について
(2)高校との地域内外の連携について
※北海道大学の事業紹介(右録画機より)

【グループ協議】
参加者を3つのグループに実施
(本校教員とコンソーシアム委員によるグループ)
テーマ「当別高校の魅力をもどす」について発表する




当別高校

【キーワード】

- ・地域愛、人間愛、母校愛
- ・校内に「課題解決委員会」を設置
- ・地元企業にアンケート実施→地域と学校の相互理解へ
- ・ネットの口コミが古い→学校紹介パンフレット作成
- ・振興局との連携開始

北海道白老東高等学校

【STEP2】
「大学生との合同フィールドワーク」

●地元のお店を取材
●お店の歴史、お店の方の思いを受け止める





白老東高校

【キーワード】

- ・CAP-Doサイクル
- ・総合的な探究の時間を5単位設定
- ・授業外の地域活動を奨励→地域の信頼感
- ・大学生との合同フィールドワーク
- ・生徒「人前で話すのが楽しくなった」→進路選択に影響

北海道上富良野高等学校

【3学年の活動】
●町民発表会の実施
3年生が行った地域探究活動を町長への提言内容を含めて町民に発表 (YouTubeによるオンライン配信)。また、2年生の地域探究活動計画のダイジェスト発表や1年生の課題と仮説レポートも掲示し、本校の地域探究に関わる内容を公開。




上富良野高校

【キーワード】

- ・ジオパークの素材を活用し「探究」の基礎とプロセスを学ぶ
- ・学習活動の過程でリフレクションを実施し、効果を分析
- ・生徒全員が顕彰制度（コンテスト）に応募→全国大会で金賞受賞
- ・地域課題探究型の学習が卒業後の進路選択に大きく影響
- ・「探究活動」について校内研修を実施→教員のスキルアップ

北海道帯広三条高等学校

Literacy
学んだことを将来に生かす能力

▶帯広・十勝における福祉の課題
・行政の立場から福祉について聞く。
・民間の立場から福祉の実態を聞く。
・そこから福祉を取り巻く現状を知り、課題に気づき、そこから将来の自分の関わり方を考えていく。




帯広三条高校

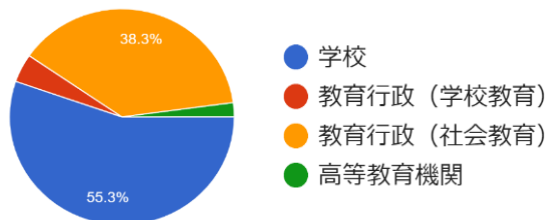
【キーワード】

- ・主体的な進路選択と進路実現
- ・生徒同士で交流する機会（探究交流会）
- ・テーマ別の15のゼミで探究的な学習を展開（1ゼミ1教諭）
- ・経産省事業を活用した第三者による外部評価
- ・教諭「生徒を学校外に出しているという意識が芽生えた」

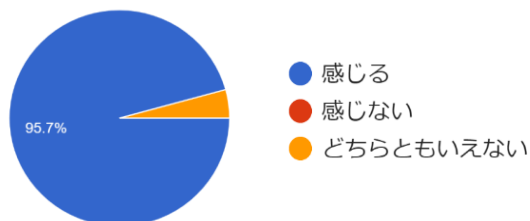
■ アンケート結果（一部抜粋）

フォーラムの事後アンケートには、たくさんの方から回答・コメントをいただきました。「もっと聞きたい」「また参加したい」という声も多く寄せられ、学校教育と社会教育が力を合わせて「地学協働」を進める必要性和可能性を再確認することができました。今回は、紙面の都合上、一部を抜粋して紹介します。

Q.参加者の属性



Q.「地学協働」の必要性を感じますか？



感想・気付き等

- ・コーディネーターの役割や活動、校内体制など、共通する課題についても知る機会となった。
- ・生徒にとっても、大人にとっても、地域で地域を学ぶだけでなく、**キャリア教育としての価値も感じた。**
- ・**知識の学習と実体験との結びつき**によって生徒がさらに成長できると感じている。
- ・かなりの時間を割かなくてはならない。本来の教育活動と探究活動との時間配分や教員の負担の大きさを考えると、どちらとも言えない。
- ・どうしても、「高校生の発想力＝商品開発」みたいなものを評価したり、地域を学ぶことが重要視されたりしているが、高校で学ぶ基礎はそこではないと思う。その**素材として地域があり、その下地ができて初めて地域とつながった活動になる**と思う。高校生が**様々な経験をとおして成長し、人生の選択肢を広げる点で推したい。**
- ・学校教育内だけのスキル習得や社会から隔離された状態での教育では、**現実的に現代社会で生きるための力が不足する**と感じる。
- ・地学協働の先に、**高校生が「どう生きるか」「どう生きるべきか」の道標になるものがある**と考える。
- ・高校生の探究的な学習と地域人材の活躍など、**学校教育と社会教育のどちらの課題にも向けた活動だ**と思うし、これからの魅力ある高校づくりの良い例だと思った。
- ・地域ごとに抱えているリソースが違うので、一律で同じような取組をする必要はまったくないと思っている。**地域との協働をすることが目的になると危険だ**と感じる。あくまで自分軸で生徒が考えて、突き詰めていきたいことや、やってみたいことを、**地域「で」やる**ことが大切だと感じている。
- ・地学協働の字の如く、学校の活動を通して地域活性化に資する人材育成につながっていることを改めて実感できた。ただ、そこに至るまでのアプローチにコーディネーターの存在が不可欠であり、その配備については予算を含めて、**行政サイドからの支援がないと各校の取組には大きな格差が生じたままになる不安がある**ことも感じた。
- ・私は中学校に勤務しているが、本校でも地域や社会の資源や人材とつながって、課題解決をする学習を行っている。地域の中で地域で生きる基盤を培う「ふるさとキャリア教育」の視点で、実践を継続していきたいと思っているが、高校とは異なる中学校での限界を感じている。地域とつながりたいと考えている先生方の困り感もよく耳にする。この「CLASSプロジェクト」のような支援が小学校や中学校にもあれば、**小中高を貫く、地学協働による効果があるのではないか**と思った。
- ・地域との連携に関して、「**社会教育**」に相談してもいいんだと知った。

「**地域によって実情が異なるため、いかなる事例も参考に留まる**」という意見がありました。この考え方は、とても重要で、先進事例をコピーしても上手く機能しないということは往々にしてあります。取組事例は、それぞれの地域や学校の実態や特性に合わせたアレンジをして、初めて意味を持つと考えます。

また、「**今後は学校教育と社会教育を組み合わせていかなければならないと感じる**」といった意見もありました。「北海道CLASSプロジェクト」は、まさにその視点で推進しています。学校教育と社会教育が相互理解することは、学校だけでなく様々な面において間違いなくプラスに作用すると考えています。

2 地域と学校の連携推進協議会（道北）の報告

道教委は、「コミュニティ・スクール(CS)」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって「地域学校協働活動」を充実させる方法等についての理解を深めるため、「地域と学校の連携推進協議会」を全道4つのブロックで実施しました。

今回は、令和4年11月29日に道北ブロックで実施した内容を紹介します。

■ 実践発表



【天日CSコーディネーター】

「富良野市立東小学校CSの取組」

富良野市立東小学校CSコーディネーター 天日 守氏

富良野市立東小学校では、地域を熟知した町内会長がCSコーディネーターを担っており、学校支援に地域住民を巻き込む要として、CS通信、SNSでの発信、CS主催の「夏祭り」やPTAとの合同研修会などの活動をコーディネートすることで、子どもたちのためのみならず、地域住民のやりがいにつながるなど、CSと地域学校協働活動に関わる具体的な取組について発表していただきました。



【原田代表】

「遠別農業高校の地域連携コーディネートとCS設置準備に向けた取組」

NPO法人えんおこ代表 原田 啓介氏

遠別農業高等学校では、各組織が担当する役割を明確にしてコーディネーターがつなぐことで職員の入れ替わる組織であっても学校と地域が連携・協働した活動を継続することができたこと、学校と地域が互いにメリットのある活動を行うことで信頼関係を構築できたことなど、コーディネーターの立場から道立高等学校におけるCSの導入に向けた具体的な実践について発表していただきました。



【治田教頭】

「学校運営協議会から広がるスクール・コミュニティの実現～地学協働の1丁目1番地～」

北海道常呂高等学校教頭 治田 理知氏

常呂高等学校では、学校運営協議会委員に地域の特色を共に活かす人や地域の課題を共に解決しようとする人を選定するなど工夫したことにより、地域とともにある学校づくりのビジョンを共有し、委員が力強い応援団となっていること、生徒、教員、地域の「やってみよう」を大事にくみ取り実践することで、達成感とともに、前向きな学校文化をつくりあげていることなど、具体的な実践について発表していただきました。

■ 情報交流

情報交流は、「義務教育」、「高等学校」、「特別支援学校」、「コーディネーター」の4つのグループに分かれて実施しました。高等学校グループでは、学校がまちの課題の理解から始めることが重要であることや、地域の課題を学校とともに解決しようとする地域住民を委員として推薦した事例など、CSの効果的な導入のあり方について交流しました。また、コーディネーターグループでは、町教育委員会職員がコーディネーターとして、週3回、小学校、中学校、高等学校（道立）において勤務し、小中高による異校種連携の促進に向けて取り組んでいる事例など、これまでの実践や工夫などについて交流しました。

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。今号は、北海道立図書館の「令和5年度（2023年度）図書館活動支援事業」について紹介します。

道立図書館の「図書館活動支援事業」とは・・・

道立図書館は、市町村立図書館や公民館図書室、学校図書館への支援を運営の重点の一つとして位置付け、全道の図書館活動の活性化や、子どもの読書活動推進のために様々な事業を実施しています。

市町村や学校で活用できる事業は、大きく分けて次の3つがあります。

*詳しくはこちら <https://www.library.pref.hokkaido.jp/web/about/qji1ds000000td2.html>



1 市町村支援事業

○ 重点サポート（実施数3程度）

○ 講師派遣（募集数10程度）

○ 運営相談（随時）

様々なスタイルで



*選書基準や除籍基準づくり、著作権、業務のお悩みなどについて、ささいなことでもお気軽に相談できます。



2 学校図書館支援事業

○ 学校図書館環境改善（募集数5） ★学校申込可

*環境改善のガイダンスやワークショップを実施し、除架・除籍やレイアウト変更の実際を体験できます。

○ 学校図書館講師派遣（募集数3） ★学校申込可

○ 学校図書館運営相談（随時） ★学校申込可

○ 学校ブックフェスティバル（募集数18）

図書館委員会や
図書局向けにも！

3 支援貸出事業

○ サポートブックス（事前申込） ★学校申込可

○ 大量一括貸出し（随時）

○ 事業貸出し（随時） ★学校申込可

○ 学校図書館協力貸出し（随時） ★学校申込可



NEW ~注目セット!~

■ 大きな文字の青い鳥文庫（サポートブックス）

■ バリアフリーセット（事業貸出し）

■ 理科読セット（サポートブックス）

申込みが必要な事業は、3月14日締切となっています。お問合せは、道立図書館企画支援課（011-386-8521）へ

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益財団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>